



# 全国連合退職校長会

# 会報



年頭所感

今思ふこと

会長 入子 祐三

令和五年の

新春をお迎えのこと

お祝い申し上げます

迎春のお慶びを申し上げます。本年も変わらぬご支援・ご協力をお願い致します。

年頭所感として、当面する課題と要望事項について端的に拾いあげてみたいと思います。

○GIGAスクール構想の推進において、自治体間、学校間において、自治体間、学校間に差が生じている。またICT活用力、指導力に差が生じている。地域差や学校差を無くす人的支援・環境支援の整備が必要である。

○新型コロナウイルス感染症対応を踏まえ、子供たちの学びを保障するとともに、個別学習を保障出来るようにICTの端末を整備する。そのため、学級編成の基準や指導体制の計画的整備が必要である。学

級編成の標準の引き下げを含め、少人数での指導にする。

○令和四年度に引き続き、新型コロナウイルス感染症対策として、三密を避けるための環

境づくりや習熟度に応じた学習の実施等学びの保障をサポートするために必要な人材配置を支援する。

○新型コロナウイルス感染症対策の消毒作業等、教師をサポートし、児童生徒への指導や教材研究などに注力できる体制を整備する。

○中学校における部活動指導員の配置及び適切な練習時間や休養日の設定など部活動の適正化を進める。部活動指導員の配置支援を行う。

○児童生徒の学習の遅れの補充のためにICT端末を利用してオンライン学習を行う。また有効なデジタル教材について研究を進める。

○令和の日本型学校教育の推進のため、小学校教員選考に教

科担任制を推進する。英語をはじめ各教科の専科教員を配置する。

○個別最適な学びを実現するため中学校も35人学級に切り換える。

○学習指導要領の基本理念である「カリキュラム・マネジメント」や「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の充実を図る。

○デジタル教科書の有効性や使用の在り方について検証するとともに紙の教科書との併用を検討する。

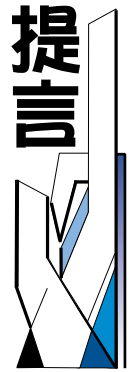
○「学校における働き方改革」を推進する。

○スクールカウンセラーや部活動指導員やICT支援員等の配置により「チーム学校」の充実を図る。

○優秀な人材の確保のため待遇を改善する。

○教員採用選考を改善する。教職の魅力の向上策を検討する。

以上のような課題・問題点について可能な限りに努力して解決を図っている途上ではありますが、残された課題が多いことが現状です。全連退の新年度の活動目標・事業計画に反映させた」と考えます。



## 新入会員の獲得に向けて

副会長（東海北陸地区） 結城 正斉

私の所属する富山県だけでなく、他の都道府県の退職校長会でも会員の減少が心配されていると思います。

会員数減少への対策は、新入会員の獲得であると考えています。現職校長への入会勧誘には、退職校長会の活動を知ってもらうことが大切です。特に、現職

校長が抱えている教育委員会には言いにくい問題を伝え、問題の解決支援をできるのが退職校長会だと思います。そうすれば、現職に退職校長会は役立つ組織であるとの認識を持ってもらい、「入りたい」と思ってもらえるのではないのでしょうか。そのためには、退職校長会と現職校長会との交流や会員と現職との交流を増やさねばなりません。現

職校長の現状を踏まえて、教育委員会と実りある意見交換をすることが必要です。

また、責任ある職務を果たした誇りを持つ者が集い、交流するのは自然なことですし、大切なことです。しかし、昨今、集団への帰属を厭う風潮もあり、退職校長会への加入に二の足を踏む人があるのも事実です。このため、現職校長会の活動を通して、仲間同士の交流は大切であり、退職後も交流が大切であることを再認識し、退職校長会に入会して欲しいものです。このためにも、現職校長会との円滑な交流が望まれます。

全国連合退職校長会においても、全国の現職の思いが教育施策に反映されるよう、引き続き努力をお願いしたいと思います。また、現職校長会、園長会との交流も期待します。

加えて、途中退会の防止も重要であり、そのため、会員が参加・参画を実感できる活動を創り出すことが課題だと思います。

## 現職教育職への応援を

副会長（九州地区） 伊藤 圭二

過日、福岡県教育委員会の人事管理主事と主任指導主事を招いて研修会を実施しました。その一項目が「ICT活用の現状」についてでした。

市内に、小学校に通う孫がいます。昨年冬、パソコンやタブレットといった情報通信技術

（ICT）端末が貸与されたとのことです。孫たちは指導よろしきを経て対応が早く、使いこなしているようです。日本中の公立学校で貸与が進んでいます。そこには、文科省が進める「GIGAスクール構想」と「新型コロナウイルス」という二つの要因があったと思いますが、しかし、このことを含め教職員の負担は増加し、ICT活用も十分な所まで至っていないようです。

さらには、教員不足は大きな課題です。西日本新聞の記事で、

「小中教員の勤務状況が苛酷になっている」という報告です。

デジタル対応など業務が拡大し教員の勤務時間中の休憩時間がゼロだったことが研究者の調査で判明したとのこと。加えて、部活動指導や、時間外勤務手当がない等々。勿論、「給特法」があり教職調整額が支給されています。記者は、4%の根拠は66年当時の社会状況から割り出されたものと言います。

昨年十月さいたま地裁判決で、給特法は、「もはや教育現場の実情に適合していない」と指摘。このような現状を鑑み、全国連合退職校長会は、文科省をはじめ関係省庁に対し、魅力ある教育職を育み、優秀な人材が集まる給与法等の改善を強く要望していきたいものです。

さらには、令和五年度から定年が延長され、退職校長会への新規加入がないなど変則的になります。現職を応援していけば本会への入会増に繋がります。

全国校園長会長より



令和の日本型学校教育の実現へ

全日本中学校長会

会長 平井 邦明

新しい年を迎え、謹んで初春のお慶びを申し上げます。

本年も皆様にとつて、よき一年となりますことを心より祈念申し上げます。

新型コロナウイルス感染症との長い戦いは学校の教育活動に影響を与え続けてきました。その中でも、全教職員で「何ができるか。」を考え、夢中になって取り組んできたことが、今では「コロナ禍での産物」と思えるようにもなりました。苦しい状況の中での取組にも大きな価値があったと実感しているところです。今後も、「生徒が満足

感や充実感を得られるように」「学びを止めないように」という思いで取組を進めていく所存です。

これまでの「日本型学校教育」が「教師の担う業務範囲の拡大」「子供たちの多様化」「生徒の学習意欲の低下」などの課題に直面する中、極めて重要で新たな取組が「学校における働き方改革の推進」「GIGAスクール構想の実現」「新学習指導要領の全面实施」です。

「令和の日本型学校教育」は、子供たちの知・徳・体を一体的に育む「日本型学校教育」+「新しい動き」と捉えることができますが、「2020年代を通じて実現すべき『令和の日本型学校教育』の姿」を目指すためには、何より「教職員を支える環境の整備」が重要であると思えます。

そのため、全日本中学校長会としましては、全日中新教育ビジョンの下、全国の会員による緊密な協調を図りつつ、英知を集集しながら対応していきたい

と考えております。

全国連合退職校長会の皆様には、今後とも変わらぬ御指導、御鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。



年頭のご挨拶

全国高等学校長協会

会長 石崎 規生

令和五年の年頭にあたり、全国連合退職校長会の皆様に謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

昨年は新型コロナウイルス感染症が依然として学校の教育活動に影響を及ぼす中、「コロナとの共存」を目指して修学旅行や文化祭・体育祭などの学校行事を再開する様子も伺え、コロナ以前の教育活動が本格的に再開され始めた年となりました。

昨年の四月から新学習指導要領がスタートし「知識・技能」

「思考・判断・表現」「主体的に学習に取り組む態度」に整理された観点別学習状況の評価が高等学校でも本格化し、高等学校における授業は大きく変化し始めました。

さらに十一月には、『令和の日本型学校教育』を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成（答申素案）、「学校部活動及び新たな地域クラブ活動の在り方等に関する総合的なガイドライン（案）」、「令和7年度大学入学共通テストの問題作成の方向性及び試作問題等について」の公表に加えて、高等学校における「共通性の確保」等今後の高等学校教育の在り方について検討する「高等学校教育の在り方WG」が設置されるなど、令和五年に向けて教育改革の大きな波が押し寄せています。

全国高等学校長協会では、自校や地域の事情に止まらず、地域的・経済的事情をはじめ、多

様な背景を持つ全国の高校生が一人も取り残されることのないよう力を合わせて参ります。本年も本協会の活動に皆様の御理解と御支援を賜りますようお願いいたします。



全国特別支援学校校長会  
会長 市川 裕二

### WITTHコロナ時代の 学校経営・校長会の活動

全国連合退職校長会の皆様におかれましては、特別支援学校の教育活動並びに校長会の活動につきまして、ご協力・ご支援を賜り有難うございます。

さて、今年度で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が始まり3年目になります。これまで、感染防止の徹底のため、運動会や文化祭等の行事、宿泊行事等の中止や縮小をせざるを得

ない状況でしたが、今年度は、感染防止に配慮しながらも、行事の実施など、通常の教育活動ができるようになってきました。特に、修学旅行等の宿泊行事ができなかったことは、極めて残念な状況でしたが、今年度は、特別支援学校でも、宿泊行事等を実施できた学校が多くなったと思います。校長として、宿泊行事を引率し、子供たちの生き生きとした表情を見ると、その学年、その年齢でしかできない貴重な学習ができるようになってきたことは、改めてうれしく思います。

全国特別支援学校校長会も、今年度は、WEB会議を活用して、例年並みの総会、研究大会を実施することができました。直接顔を合わせて話ができないもどかしさはありましたが、平常に戻りつつあります。今後も、特別支援学校の教育活動の充実のための校長会の活動にしっかりと取り組んでいきたいと思っております。引き続き、ご支援・ご協力をお願いいたします。

【第一日】開会式に続き、共通の「研究協議題」を基に各都県の発表があり、それぞれの実情



### 関東甲信越地区

期日 10月27日、28日  
会場 埼玉グランドホテル深谷  
出席者 59名

第51回関東甲信越地区退職校長会連絡協議会埼玉大会は、秋晴れに恵まれ多数のご来賓の方々のご臨席を賜り、10都県から役員、幹事59名の参加により盛大に開催されました。

過去2年間、栃木県、長野県では、コロナ禍のため残念ながら中止を余儀なくされました。本年埼玉が当番県となり、コロナの感染状況を何度も確かめながら一喜一憂する日々を送りました。幸い、8月下旬から、感染者が減少傾向に入り、3年ぶりに開催する運びとなりました。

を知ることができました。今後の活動の指針となる情報交換ができたと思えます。

【懇親会】協議会終了後、感染防止に留意し、夕食会を中心にアトラクションとしてパワーポイント・プロジェクトによる「10都県物知りクイズ」、「深谷市の名品店舗紹介」等で親睦を深めることができました。

【第二日】NHK大河ドラマ「青天を衝け」で放映された「日本資本主義の父」渋沢栄一氏に関わる①渋沢栄一記念館、②旧渋沢邸「中の家」をバス2台に分乗して見学いたしました。渋沢栄一氏は、2024年から発行される新1万円札の肖像として聖徳太子、福沢諭吉について3人目の「日本の顔」となります。この見学で本県偉人の渋沢栄一氏の偉大さに触れることができました。ご出席いただいた皆様のご協力に感謝申し上げます。

なお、今回は10月からの全国旅行支援事業により該当者には宿泊代金の割引並びに地域クーポン(三千円)の進呈がありました。

東北地区

期日 10月13日(木)  
会場 盛岡グランドホテル  
出席者 61名

【開催三年ぶり・うれしい】

第48回東北地区退職校長会連絡協議会岩手大会は令和2年度から岩手県が担当し、同年度と3年度はコロナのため中止。令和4年度は10月13日～14日盛岡市繁温泉ホテル紫苑での開催ですが8月中旬にかけて東北地方もコロナ感染者数が急増しました。8月末に東北各県の会長と電話で協議し、宿泊懇親会はせずに、会場を盛岡市内のホテルで一日日程に変更しました。

【アクシデント・秘めた決意】

大会当日の朝6時、大会の講話講師の全連退会長入子祐三様から館澤事務局長に「今朝、転倒して盛岡に行けない」との急報が入りました。木村幸治会長は非常時とし秘策を決意しました。

【理事会・昼食会・大会】

○理事会では、令和3年度の役員

改選で現在の役員選出のことと大会の経緯を報告。協議

では令和5年度第49回大会は「宮城県」、協議題は今年度と同じとし、東北の会長は「宮城県の会長」と決定しました。情報交換では本会への

入会状況、小学校教員採用者の低下、デジタル化、現職教員の支援等について意見交換をして充実しました。

○昼食会は、4～6人の丸テーブルです。料理を味わい名司会のもと各県の発表に拍手をして交流しながら楽しみました。

○大会では、来賓の祝辞後、講話は当会の木村幸治会長が急遽「宰相原敬の魅力」と題して講話しました。話題提供は、宮城県の荘司貴喜氏、福島県の福士寛樹氏、山形県の田澤藤明氏が行い活発な研究会になりました。

【東北の仲間へ感謝】

東北の仲間と久しぶりに会ってもすぐ打ち解けて話せる幸せと支えがうれしく感謝です。

中国地区

期日 10月20・21日  
会場 鳥取市 白兔会館  
出席者 46名

【協議内容】

3年ぶりに開催した連絡協議会は、中国地区退職校長会の活動テーマである「地域や学校とつながる退職校長会」について各県の実践発表や課題別グループによる情報交換を行いました。

実践発表では、地域の歴史や文化を生かして、郷土への関心や愛着を深めるための取り組みや子どもたちの進路保障をめざした取り組みなど、多様な地域貢献活動が紹介されました。

また、会員減少が進む中、会員相互のつながりを深める活動を工夫することによって、退職校長会の充実をめざした実践も紹介されました。

課題別協議では、「会員の生きがいにつながる活動」「退職校長会組織の拡充」「地域としての学校支援の在り方」の三つ

の協議題について、小グループで情報交換を行いました。

コロナ禍で活動が制限されたり、会員減少が進む中、お互いの悩みを共有し、成果をあげている取り組みを学ぶことは、各県の今後の活動充実につながる

と実感しました。久しぶりの連絡協議会でした





つながるために

山形県退職校長会

会長 鈴木 弘康

一 少しでも支部の力に  
退職後の就労が進んでから、  
「役職定年」入会始期」という  
考え方を打ち出しています。

入会控え、コロナ禍による組  
織への忌避感、今後の定年延長  
も含め、勧誘に工夫が求められ  
ています。ホームページの冒頭  
に載せてある紹介文です。

「校長の職を退いた後の立ち  
寄り処であり、学校の応援団と  
して現場を支えるときともに、い  
ろいろな活動を通して生きがい  
を創造していくところ」と。  
「気軽に立ち寄り、共にいきが  
い」と誘い文句にしたところが  
肝です。

さらに、各支部で活用できる  
よう勧誘パンフレット(例)を  
PDFで載せたりしています。

二 感謝と経費節減

来年度、先輩方への敬意から、

満88歳以上の会費免除を始めま  
す。既に支部会費免除の実態が  
あり、整合させました。

会員減による予算減少の中、  
会費免除による予算削減が加わ  
り、身を切る検討を始めていま  
す。

三 情報交流の要として

コロナ禍によって、組織とし  
ての弱点が見えました。ホーム  
ページを活用した情報共有に取  
り組んでいます。全連退や東北  
のこと、重点や方針、福利・厚  
生まで、紙ベースから抜け出し  
ての経費節減、さらに県事務局  
の見える化が進むものと期待し  
ています。

県内12支部(会員1771名)  
とリアルタイムで情報を共有で  
きるようになるまで、少しずつ  
焦らずに進めていくつもりです。  
四 そして現職と

いろいろな意味で、現職の校  
長先生方とのつながりをもっと  
深めていく必要を感じています。

一人一人がタブレットを持ち、  
オンライン授業を成し遂げた後  
輩たちです。彼らが入会してく  
るわけですから、私たちも一歩  
踏み出していいこうと思っていま  
す。

会員数の激減

徳島県退職校長会

会長 石川 和幸

一 減少の背景

コロナ感染拡大の影響から総  
会・研修旅行等各種会合の中止  
など会員の集まる機会が大変少  
なくなつたこの二、三年でした。  
その結果、会員相互の繋がりが  
人間関係の希薄が顕著になりま  
した。その上定年制の問題と再  
任用制度の導入、年金の支給の  
年齢が65歳になりました。その  
ことから何かの仕事をして収入  
を得る人が増えている関係で新  
しく会員になる人の減少が続い  
ている現状であります。

二 退職校長会への魅力の欠如

最近の退職される校長の意識、  
考え方が変わりつつあると感じ  
る昨今です。新入会員の勧誘の  
お話をしても「会費まで払って  
何の見返りがあるの」「長年教  
員をしてきて今さら教育の世界  
に関わりたくない」「人のお世

話はできない」等の声を耳にす  
ると大変悲しい・寂しいの一言。

三 徳島県の歴史に残る出来事

令和4年3月から5月の間に  
大きな出来事が起きました。そ  
れは2つの組織体(徳島市と鳴  
門市)が県の退職校長会から退  
会することになりました。会員  
数は昨年より約三〇〇名の減に  
なりました。退会をする要因に  
なつたのは「会員数は多くいる  
が事務局でお世話する人がいな  
い」ことによるものでした。徳  
島市の場合は理事会で存続の検  
討をする必要があるとの意見を  
注視することなく、会長の判断  
で突然解散することになりました。  
ある会員からのお手紙の内  
容の一部「さて、突然の退職校  
長会の解散にはびっくりすると  
共に驚きました。歴代会員・役  
員が一生懸命守って続けた組織  
を会長自らが中心になって解散  
するとは、それも県都の中心組  
織を常識では考えられないこと  
が起こってしまいました。」二  
つの組織体は再建に向け出発!!

## 教育の振興を願って

広島県退職校長会

会長 徳永 正夫

広島県内には退職校長会が3団体あります。本会はその1つで広島市を除く22市町の小中退職校長を中心に構成している団体です。支部は21支部、会員数は約1700名です。

### 今年度の活動状況

○3年ぶりに総会開催！

4月22日(金)3年ぶりに総会を開催しました。開催にあたっては十分な感染対策が求められました。

会員相互の間隔をあける為200名収容の会場を確保し代議員数を各支部2名に制限して開催しました。検温、大声を出さないなど、これまでに経験したことのない総会になりましたが、3年ぶりの再会に会は盛り上がりました。

○県会報について

県会報を年3回発行しています。コロナ禍、支部活動の記事を掲載できない為、各支部に投稿された記事を転載することにしました。会員個々の近況を報告することによりこれまで以上に交流が深まったとうれしい感想をいただきました。

○「教育懇話会」について

広島県教育委員会と年1度「教育懇話会」を行っています。教育行政の皆さんと教育課題について話し合い、退職校長が地域や学校で生かせることは何かを明らかにすることをねらいとしています。今年度は、「教員志願者数の減少」「教職員の資質の向上」「部活動に地域人材を活用する施策」を中心に話し合う予定です。

コロナ禍、2年間は文書回答による「教育懇話会」でしたが、今年度こそ、対面での「教育懇話会」を実施し、退職校長会の活動方針の柱である「広島県教育の振興」に少しでも寄与したいと考えています。

## 新たな時代への対応

佐賀県退職校長会

会長 森永 和雄

佐賀県の新型コロナウイルス感染者は、令和四年末で一六万人を超え、県民の五人に一人は罹患したことになる。変異を続けるウイルスとの闘いはこれからも続くのである。

令和四年度の定期総会は、コロナ禍の間を縫って三年振りに開催することができた。積年の課題であった会費の値上げも会員の理解のもと承認された。年度末の退職者の新規加入も例年通りに順調であった。

舞台は整ったと言える。とは言うものの課題は多い。この二年间はコロナ禍で支部も本部も計画した事業が軒並み延期や中止を余儀なくされた。退職校長の存在意義が問われている。会員同士が「つながり合い・支え合い・楽しみ合えること」が不可欠である。

その一環として、一昨年から始めた会員の趣味などを含めた自由な寄稿による「会員の交流広場(カラー印刷)」の発行は好評である。また、退職校長会パンフレットを新たに作成し、現職校長や関係機関に活動を紹介している。

退職校長会の設立目的は、会員相互の親睦と福利厚生の上は勿論であるが、本県教育の振興に寄与することを第一に掲げている。

しかし、これからはウイズコロナの活動にならざるを得ない。そこで、真の目的達成のために、本県では七月、「佐賀県退職校長会の在り方検討会」を立ちあげ、①直面している活動の課題と今後の新たな取組、②本部と支部の新たな役割分担、③様々な問題に苦慮している学校の応援団としての支援等について討議を行っている。この検討会をもとに、新たな時代に対応できる退職校長会の構築を目指し、覚悟を新たにしているところである。

「地域活動懇談会」

大分県退職校長会

会長 廣田 稔夫

大分県退職校長会は、会員2195人、県下22の支部から成り立っている。

一昨年度、昨年度と、コロナの影響でほとんどの行事が実施できないまま終わった。このままでは、「退職校長会自体が弱体化してしまう」という危機感もあり、今年度は人数を制限してでもすべての行事を実施することを目標にした。

特に今年度力を入れたのが、地域活動懇談会である。

この大会は、「退職校長と生涯学習」をテーマに、各都市が持ち回りで開催し、今年で38回を迎える。

各都市での活動を「趣味・特技を生かした活動」「地域住民としての活動」「教育の日の推進部会」の3つの分科会で発表し、話し合うものである。

このような、いわゆる「研究大会」の開催は、全国でも稀な活動だと聞いている。

一昨年度、昨年度の大会はコロナの影響で残念なことに誌上発表のみで行われた。

今年度は、規模を縮小し宇佐市安心院で開催することができた。例年であれば400人規模で行われるところ、257人の参加となった。

大会は、3年ぶりということもあり、「元氣だった」とお互いの生存を確かめ合い、旧交を温める場面が多くみられた。この数年のコロナ禍の中、自分の居住地区以外の人とはほとんど交流がないこともあり、ただ同じ場所に集まることだけでも意義深いものを感じた。

また、発表内容も充実しており、地域に積極的に関わった内容、生き生きとした趣味を生かした生活等、「生涯現役」でありたいと願っている私たちに、今後の生き方や自己のあり様を考えさせられる大会となった。

令和4年度 福岡県退職小学校長会活動状況

福岡県退職小学校長会

事務局長 栗原 学

本会は平成29年度の福岡市と北九州市の分離独立を機に、地区輪番制による2か年ごとの組織運営に取り組んでいます。本年度は「魅力ある退職小学校長の推進」をテーマに、会員相互の所属意識の高揚と組織活動の活性化、関係諸機関との連携並びに現職校長会との交流促進に努めています。本会の運営にあたっては、副会長会・支会長会を中心に重要案件・重要事項の審議を行い、3専門部（教育推進部・福利厚生部・広報部）と連携しながら事業推進を行っています。3専門部の活動は、本会運営の基盤となる重要な活動であり、これまで大きな成果を上げてきています。

主な活動として、教育推進部では現職校長との交流会や県教

育委員会との教育懇談会を行い、教育現場の取り組みや教育委員会の調査研究による県下の教育行政上の成果と課題について情報交換を行っています。福利厚生部では、各専門部員を対象にした自主研修会を行い、高齢社会における年金、遺産相続、キヤッシュレス社会の問題について知識を深めています。また、各地区持ち回りによる役員や会員参加の全体研修会が行われ、各地の文化や歴史などについて学習しています。広報部では年2回会報を発行し、各地区の会員のメッセージをはじめ文芸（俳句や短歌）の発表、各専門部の事業報告や支会活動を紹介するなど、各地区の様々な情報発信に努めています。

本年度は、コロナ対策に努めながらできるだけ事業実施の方向で活動を行い、役員や会員並びに地区内支会間の交流を通して、互いの所属意識の高揚や組織活動の活性化を図っていきたくと考えています。



文部科学省初等中等教育局長 伯井美徳氏の教育行政の説明と懇談会

一日時

令和4年8月22日(月) 午後1時30分～2時15分

二会場

文部科学省内 会議室

三出席者

◎初等中等教育局長

伯井美徳氏

◎全連退

総務部長 田中昭光

広報部長 村山忠幸

教育課題委員長 橋本誠司

事業委員長 藤崎武利

事務局長 川井仁

○全国退職女性校長会

会長 面田博子

副会長 清水朋子

全国教育女性連盟

副会長 大倉喜代美

副会長 細野千尋

四 教育行政の説明と懇談会

司会

全連退総務部長 田中昭光



1 伯井初中局長の教育行政の説明  
初等中等教育における現状  
学校数、在籍者数、教員数  
で、小学校中学校とも少なくな  
っています。40年前に比べ  
ると小学校の児童数は半分く  
らいに減っています。少子化  
に歯止めがかからない状況で  
す。学校の数は、小学校でピ  
ーク時から2割減、中学校も  
1割減です。高等学校も学校  
数は減っているのですが、最  
近の傾向としては広域の通信  
制が非常に増えています。勤

労青少年を対象とするという  
よりは、むしろ不登校気味の  
子供たちが対象で、現在22万  
人と7万人増えています。そ  
れに対する質の確保が大きな  
課題の一つになっています。  
特別支援学校は10年前の約12  
倍の生徒数になっています。  
特別支援の対象となる特別支  
援学級あるいは通級指導は急  
増しています。最近では教員不  
足と言われていますが、一つ  
の要因は特別支援学級の急増  
にあります。  
OECD生徒の学習到達度調査  
(PIISA2018)の結果  
この調査の結果から分かっ  
たことは、読解力・数学的リ  
テラシー・科学的リテラシー  
ともに世界のトップレベルにあ  
ることは変わりません。読解  
力に関しては、世界の第11位  
で、新学習指導要領の実施に  
よる、各教科等における読解  
力等の言語能力や情報活用能  
力の確実な育成が必要です。

2018年の時点で、日本  
の子供たちは学校の授業でデ  
ジタル機器の利用時間が極端  
に少ない。学校外でデジタル  
機器を利用する子供は非常に  
多い。コンピューターやAI  
機器を使って学習するという  
よりは、ネット上でチャット  
をするとか1人用のゲームで  
遊ぶ子供が非常に多くなって  
います。学習にあまり使わな  
いので、PIISA調査からも  
情報活用能力という点におい  
て課題が見られます。その後、  
1人1台端末の早急な整備を  
進めました。  
不登校児童生徒への支援  
不登校は小学校中学校とも  
過去最多になっています。コ  
ロナの影響で学校へ来ること  
に対する感覚が若干変容して  
おり、このまま放っておきま  
すとますます増えてしまいま  
すので、教育相談体制の整備  
を行い、不登校のための教育  
支援センターの充実を行って

いきます。

### 学習指導要領改訂の考え方

2020年、2021年、2022年で小中高と現行の学習指導要領が実施されています。令和3年1月26日の中教審答申で「『令和の日本型学校教育』の構築を目指して」(答申)のポイントは、全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現とあります。文部科学省としては「主体的、対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげたい。令和2年度に1人1台端末の整備が一応完了しましたので、そうしたことも念頭に置きながら、個に応じた指導、指導の個別化と学習の個性化といった個別最適な学びをより一層進めていきます。これからは、これまでの一斉授業スタイルから変革していく必要があります。それとともに「個別最適な学び」が「孤立した学び」に陥らないよう、

探究的な学習や体験活動等を通じ、子供同士で、あるいは多様な他者と協働しながらの学びも重要であります。学校教育改革のキャッチフレーズとして「個別的な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実していく。そのための諸制度の改革を進めるところで企画を進めているところです。

具体的にとのように進めていくのかというと、1月に初等中等教育分科会の特別部会が出したもので、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実するため、1人1台の端末を円滑に活用した、児童生徒への学習指導、生徒指導等の在り方について、また、教科書・教材・関連ソフトウェアの在り方についての具体案を特別部会で検討していただいています。

令和6年度が教科書採択替えの年になりますので、令和

6年度をデジタル教科書の本格的導入の一つの契機にするということ、先行して中教審で議論を進めています。その中で、学習者用デジタル教科書を一律に全国で全教科で展開することはかなり無理がありますので、段階的に行うという結論で、6年度は、ステップバイステップで紙と併用しながらまず英語から始めてみることにしました。

### GIGAスクール構想

4年間かけて配布するところを令和2年度1年間でタブレット端末を全学校全生徒に提供いたしました。どんな状態であつても学習の継続を行っていく必要があるということとで実行したわけです。令和3年度はいわば活用開始元年でした。すべての学校で活用を促進していくことが4年度の課題と考えています。

学校現場で使うときに環境が整っていないと年中エラー

が出たり、途中から止まったりということでは使えませんので、運営支援者やICTに明るい先生などのサポートスタッフの充実などに取り組んでいきます。今年度は円滑に使いこなしていけるような基盤の整備等、内容面での支援措置等、教員の研修への支援措置等を進めていこうというのが現状です。

### 小学校における高学年の教科担任制の推進

学習が高度化する小学校高学年において、各教科の系統性を踏まえながら、専門性の高い教科指導を行い教育の質の向上を図るとともに、教員の持ちゴマ数軽減など学校の働き方改革を進めるため、地域や学校等の実情に応じた取組が可能となるよう専科指導教員の計画的な配置充実を図り、小学校高学年における教科担任制を推進します。

優先的に専科指導の対象と

すべき教科は、英語、理科、算数、体育の4教科です。さらに、教員の持ち時間減にも取り組んでいるところです。公立学校における働き方改革の推進

学校における働き方改革は、特効薬のない総力戦ですので、国・教育委員会・学校それぞれの立場において、取組を着実に推進し、教師が教師でなければできないことに全力投入できる環境整備が必要です。

日本の教育水準を支えてきたのは、教師の基本的な資質・能力であるといえます。そこを何とかしなければならぬ。

教職は魅力ある仕事であり、誇りを持って取り組める状態にしなければならぬ。教職がみんなから尊敬され、誇りを持つてできるような仕事にしていくことが重要だと思います。

これからは、少人数学級が進み、各種支援スタッフ（ス

クールサポートスタッフ・学習指導員等）を増やしていきま。部活動の改革には地域との関係で議論はありますが、方向性としては進めなければいけません。ICTを活用した校務効率化を推進するため、専門家会議を令和3年12月に設置して、検討しているところです。

やはり、教師が教師でないとできないような仕事に誇りを持って従事するような仕組みは続けないかなければならないでしょう。

教員の勤務実態調査の結果の速報値が来年の5月ごろに出ます。それを踏まえながら勤務の在り方をどうしていくか、給特法の教職調整額の見直し等を含め検討を実施していきます。教員が、保護者や地域住民に尊敬されながら働いていけるような環境整備・気運の醸成を形成していかなければなりません。

2 質疑応答

○橋本教育課題委員長 デジタル教科書に関して、段階的に導入していくというお話を伺って納得しました。デジタルと紙の併用に関して無償になるかが気になっていきます。また、子供たちに1人1台の端末は配備されたが、ICT機器等の充実がまだ遅れている。それも地域によ

ってずいぶん差があるのではないか。そのための充実策が取らなければならないのではないしょうか。

◎伯井初中局長 学習者用のデジタル教科書は、教材として使う以上は保護者負担を伴わない、というのが大原則です。現在の法律ではデジタル教科書の使用を可能としているのですが、文科省の予算措置で行わなければなりません。

ICTの導入について、できる自治体とできない自治体、あるいは、できる学校とできない学校、できる先生とできない先

生等の差が顕著になってきています。デジタル教科書、教材、ソフトウエアをすべての先生が使いこなせるようなサポート体制・研修体制を早急に予算を付けて取り組んでいきます。

○藤崎事業委員長 なぜ教員のなり手が少ないのか。忙しいからか。給料が安いからか。我々もかつて忙しい思いをしたけれども、良かったところもたくさんあった。そこを追求していくべきです。

◎伯井初中局長 おっしゃる通りです。先生方が一番悩んでいることは、保護者との関係です。理論武装した保護者の方が多い。そういう人への対応をしっかりと行えるように考えなければいけません。

○事務局長からのお礼の言葉  
○川井事務局長 今日はお忙しい中を、私たちのために時間をお作りいただき、資料に基づきお話ししてくださいまして、ありがとうございます。

新年金制度と高齢化進行

福利厚生部 鴻田 好通

新年金制度始まる

今年度から新年金制度となった。より多くの人がこれまでよりも長い期間に亘り多様な形で働くようになることが見込まれる中で、今後の社会・経済の変化を年金制度に反映し、長期化する高齢期の経済基盤の充実を図るため、法律第40号の施行による。内容は、①被用者保険（厚生年金保険・健康保険）の受給適用拡大、②在職中の年金受給の在り方の見直し（在職老齢年金制度の見直し、在職時改定の導入）、③受給開始時期の選択肢の拡大、④確定拠出年金の加入可能要件の見直し等である。

年金減額通知

令和4年6月初め、厚労大臣

から年金受給者へ一通の葉書が届いた。「国民年金・厚生年金保険・年金額改定通知書」である。「年金額は、賃金や物価の変動に応じて毎年度改定を行う仕組みとなっており、令和4年度の年金額は、昨年度から0.4%の減額改定となります。」とあった。

高齢化の進行

高齢者を、65歳以上の人と定義しているのはWHOである。高齢者が総人口に占める割合を高齢化率というが、我が国は世界で最高の高齢化率となっている。例えば、内閣府の令和4年度版高齢社会白書では、令和3年10月1日の総人口1億2550万人に対し、65歳以上の人は3621万人、高齢化率は28.9%となっている。そして、その進行速度も世界一、総務省は本年9月敬老の日に合わせて推計を発表した。それによると、65歳以上の人口は、3627万人、

高齢化率は29.1%であるとのこと。

高齢社会白書に見る

内閣府は、高齢社会白書の特集「高齢者の日常生活・地域社会への参加に関する調査（令和3年度実施）」を発表した。調査対象は60歳以上の男女であるが、白書では65歳以上の集計としている。以下その一部である。

一、生きがいを感じる程度について

- ・ 十分感じている 22.9%
- ・ 多少感じている 49.4%
- ・ あまり感じていない 17.8%
- ・ まったく感じていない 2.7%
- ・ 不明・無回答 7.2%

三、社会活動等への参加について

- ・ 健康・スポーツ（体操、歩こう会、ゲートボール等） 27.7%
- ・ 趣味（俳句、詩吟、陶芸等） 14.8%
- ・ 地域行事（祭りなどの地域の

催しものの世話役等） 13.2%

・ 生活環境改善（環境美化、緑化推進、まちづくり等） 10.1%

・ 生産・就業（生きがいのための園芸・飼育、シルバー人材センター等） 7.4%

・ 安全管理（交通安全、防犯・防災等） 6.1%

・ 教育関連・文化啓発活動（学習会、子ども会の育成、郷土芸能の伝承等） 4.6%

・ 高齢者の支援（家事援助、移送等） 2.4%

・ 子育て支援（保育への手伝等） 2.0%

・ その他 2.3%

調査はこの他、二、日常生活の状況について、四、健康についてを柱として、近所の人との付き合い方、情報機器の利用内容、現在の収入の伴う仕事、現在の健康の状態等、多岐に亘る。

また65歳以上の集計に加えて、65〜74歳、75歳以上の年代別集計もある。これらに自己を重ねて見てはどうでしょうか。

大阪府退職校長会

連絡協議会の現況

大阪府の退職校長会

\*春秋会

〔大阪府立学校退職校長会〕

\*教育みおつくし会

〔大阪市立退職校園長会〕

\*教育なにわ会

〔大阪府内の公立小・中・支援（義務教育関係）・義務教育学校の退職校長会〕

大阪府の退職校園長会は、右記3つの組織により構成している。それぞれの会の構成員、創設の歴史、運営方針が異なるため、一体化すると各会の設立の意味がなくなり、運営が困難になることから、昭和40年の「全国連合退職校長会」結成の趣旨に賛同の上、大阪府は「大阪府退職校長会連絡協議会」として団体加入をし、今日に至っている。

I 大阪府立学校退職校長会（春秋会）

創設 昭和36年 ◎会長 和田良彦 ○事務局 大阪府立学校長協会内

○活動事例 ◇総会 年2回 ◇幹事会 年2回 ◇事務局会議 年6回 ◇「春秋会名簿」年1回発行 ◇「春秋会会報」年2回発行 ◇各年度退職者別懇親会 年1回程度 ◇クラブ活動 美術クラブなど ○年会費 3000円

II 教育みおつくし会

創設 昭和37年 ◎会長 稲葉 廣 ○事務局 会長宅  
○活動事例 ◇令和4年6月創立60周年記念総会開催 ◇総会 年1回 ◇理事会 年12回 ◇評議員会・幹事会 年数回 ◇名簿 現在、次回発行準備中 ◇会報「教育みおつくし」年2回発行 ◇教育・支援活動 大阪府立校園長会との教育懇話会 年3回開催 ◇バスツアー等 秋実施 ◇部活動 女性文化交流会・美術部・囲碁部・ゴルフ部等 ○年会費 2000円

III 教育なにわ会

創設 昭和38年 ◎会長 辻 治 ○事務局 会長宅  
○活動事例 ◇総会・講演会 年各1回 ◇理事会 年12回 ◇常任理事会・理事会 年10回 ◇専門委員会「組織（会員の把握）」「事業（講演会・懇親会開催）」「会報（年2回発行）」「名簿（会員名簿・記念誌発行）」 ◇地区活動 各8地区（大阪市1地区と府内7地区）での独自活動（総会・講演会・研修会・見学会・懇親会・地区会報等の発行） ○年会費 2000円

※大阪府の退職校長会の特殊な活動状況を理解していただきたく掲載しました。

各地の会報紙より

千葉県退職校長会

「会報」第91号

愚直に歩んできた道

夷隅 藤江 裕

昭和三十九年に東京オリンピック開催、当時小学五年生の私は開会式の華やかさとマラソンの円谷幸吉選手の活躍に刺激され、毎日一人で走るようになった。それから今日まで唯一続いているのが走ることである。

小学生の時には、走っていて、二度、生死をさまようことがあった。幼い私は、芭蕉の句『夢は枯れ野を駆け巡る』のような世界を体験したことを、今でも覚えている。体が弱く学校を休みがちだった私は五年生になった時、親戚だったおじさんが担任となり、体育の授業をきちんと教えてくれたおかげで、体育に興味を持つようになった。徐々に体が大きくなった私は、

毎日学校までの往復を走るようになった。それまで目立つこともなく、病気がちの私の身体中から、漲るような活力が湧いてきた。

それ以来六十年間、毎日飽きることなく走っている。今でこそ一日五km前後であるが、落ちていく体力を極力ゆつくりさせるためにも続けている。

振り返ると、管理職となった二十年前から近所の子供達を集めてランニングクラブ『フジックス』を主宰している。

早朝、小学生から大学生、引率保護者を含め四十名前後のメンバーが近くの小学校のグラウンドを借りて走っている。増田明美さんも帰省されると参加する。マラソン大会で活躍する子もいる。何よりも現在まで自分を含め、大きな病気や怪我也無く三百六十五日活動している事が一番の誇りである。

何も取り柄のないごく普通の私が、自慢できることは一つだけ。三百六十五日休まず続けているランニングと体操である。

この積み重ねが今の張りのある生活と健康な日々を送れる土台となっていると信じている。いつまで続けられるか分からないが、これからも二十時就寝、四時起床で五時から走り続けていきたい。

埼玉県退職校長会



### 草加は相撲が

チヨウ盛ん!

草加 中村 文夫

「会報」第176号

あら楽し長たる職を全うし浮世の月にかかる雲なし、の心境で退職し、はや古希となり昔のことが懐かしく思われる。

草加は昔から相撲が盛んで小学校には土俵があり毎年夏休みには関取が来草し、子供達と相撲を取り、最後に会場校の校長と関取が対戦し、校長が寄切りで勝つことが恒例行事となっています。ところが天下の高砂小での平成24年の草加っ子相撲で校長が初めて上手投げで負けて

土がつかまりました。その時の校長は私です。関取はあの大横綱の白鵬関で、どうしてこんな事になったのか。白鵬関は連勝中で、市民千名、豆力士三百名が注視しており、九月場所前で黒星は付けられないと打合せ通りにはいかず、私が投げられた訳です。相撲が終わり白鵬関が『校長さんすいません』と謝りました。親方は『横綱が負けた相手に謝る事は初めてですよ』と言われましたが相撲の事はよく覚えていません。私は非常にラッキーで、若い時の高砂小の体育主任時代には、横綱北勝海関、現八角理事長を招き、3年後の平成2年には大横綱千代の富士関を招き、会場校として万全を期して対応した貴重な経験もあります。さらに退職の年には再び横綱白鵬関を招き花を添えて頂きました。横綱との対戦は、当時の教頭で現草加小学校の小松薫樹校長が相撲を取り見事に寄り切りで勝利しました。そんな訳で高砂小では3人の大横綱を招き子供達と相撲を取り夏休みの

ビッグプレゼントになりました。草加の子供達は大変幸せですね。これら相撲の主催は草加市青少年相撲振興会で、現在副会長として本年度創立40周年を迎えます。これまで地方巡業は5回も開催して5年前の市制60周年記念の草加場所では、横綱稀勢の里関・鶴竜関も来草し、超満員で大盛況でした。勸進元の役員として業務は激務でしたが当日は当然満員御礼となり多額の純益をゲットしました。

昔話ばかりで恐縮ですが、現在、生涯スポーツである週1ゴルフを核に30の役をこなし校長時代よりも多用な日々を大いにエンジョイしてフリーを満喫しています。スポーツジムではストレッチ筋トレ有酸素運動等で健康を維持し、3つの「き」の低下を防止しています（筋力・記憶・気力）。夢は、3回目のホールインワン・イーグル・エージシュートを目指し、常にハリを持ち毎日ハッラツとハリキッテアクティブしています。今後も人生百年時代にむけア

グレッシブにトライします。

石川県退職校長会



「会報」第98号

### 四六会の歩みと思い出

白山・野々市 古田 栄一

昭和四十六年四月一日、加賀市立山代中学校へ初任者として赴任した。

白山麓小規模校出身の私にとって、多くの戸惑いと不安の中での教職生活のスタートであった。先輩の先生方には良くしていただいた。しかし初任者は私一人、学級経営や授業の在り方などで右往左往の日々を過ごしていた。

そんな中で救いの場となったのが、県教委初任者宿泊研修での五名の人たちとの出会いであった。全く面識はなかったが、お互いの悩みなどを語り合い、意気投合した。

研修会後も交流を重ね、現在まで付き合いが続いている。

「四六会」と命名し、毎年一

回夫婦同伴での一泊研修、持ち回りの幹事で近況を語り合い、懇親を深めてきた。珠洲のB君、羽咋の故Y君、宝達志水のS君、金沢のK君、S君がメンバーである。全員定年まで勤め、校長として退任できた。今まで長い間、遠慮会釈なく気持ちの晴れる会となっている。

今、コロナ禍の中で会うことがままならず残念である。改めて人生で「人とのふれあいの大切さ」を痛感している。一日も早くコロナが終息し、多くの方々の出会いを願っている。

広島市退職校長会



「会報」第94号

### 思い出

南区 末重 文男

何を言っても「年寄の戯論」と、言われる年になった。

生まれは昭和5年。幟町小学校2年の時支那事変勃発。6年の時大東亜戦争(第二次世界大戦のこと)始まり、一中3年の

時原爆・終戦。

私は教師の道を選び、小学校教師となる。いろんな事があつた中で特に印象深いことのひとつに、昭和30年代の教育がある。

広島大学に吉本教授の研究室と片岡教授の研究室が並んであつた。吉本教授はマカレンコの研究。(マカレンコはソ連の教育家・社会活動家でソ連革命後の浮浪児教育から発した集団主義教育論を展開、第二次大戦後、日本の、特に日教組の先生方に大きな影響を与える)

一方、片岡教授はデュエイの研究。(米国のジョン・デュエイは哲学者・教育学者、プラグマティズムの立場から論理学・倫理学・社会心理学・美学などあらゆる方面にわたる業績がある)

私は片岡教授のもとで小集団学習の実践・研究をした。日本各地で大会をしたり、小学館の学年別月刊雑誌に連載したりするなど活躍したもののだが、驚いたことが幾度となくあつた。その一つは、5年担任となつ

た時、前学年担任から何も引き継が無いので、ホツとして教室で挨拶を始めたら、中央席のT君が異様な目つきになり出し、隣の子が「先生てんかんじゃー。」と叫ぶ。初めての経験なので何もわからず抱き抱えて保健室へ運ぶ。保健の先生は「ひどくなつてきて、一週一度以上発作を起こすからそのつもりで。」と言われる。

『これは大変な組を持ったな』と思いながら教室に帰り、小集団学習に取りかかった。

ところが、小集団学習を始めたらT君が今までと違って生き生きと活動し、発言し、見違えるようになる。同時に、てんかんの発作も無く、卒業するまで一度も発作を起こさないう卒業していった。医者薬を用いてもどんどんひどくなつていたのである。

教育の力は私達が考えている以上のものがあり、驚かされた。



五反田だより

険しい国際情勢、異常気象、物価の高騰、そしてコロナ禍の行方……。

こうした中で、何とか自分なりに立ち向かう心の力をもちたいものです。そのためには家庭、職場、近隣等のかかわりの中で、「ここに居るから心が安らぐ。勇気や希望が湧く。」といった「心のしあわせ感」をもつことが重要な基盤といえましょう。

ふと、昭和四十年代に全国的にひろまった「あいさつのオアシス運動」が頭に浮かびました。「おはよう（ございます）」「ありがとう（ございます）」「しつれいします（しました）」「すみません（ごめんなさい）」こうした言葉が世の中にあふれたらいいな……。

これらの言葉を、まず、あなたがたくさん発信すれば、あなた自身も、それを受けた相手も「心のしあわせ感」のパーセンテージが増加すると思えますがいかがでしょうか。（OT）

◇10月

- 4 部長会
- 17 部長会
- 20 生涯福祉部会
- 21 事業委員会
- 24 教育課題委員会

◇11月

- 10 財務状況検討会議
- 第3回常任理事会
- 14 教育振興部会
- 教育関係23団体全国集会
- 参加

◇12月

- 2 部長会
- 5 広報部会
- 16 教育課題委員会
- 30 本部研修（品川区立八潮学園研究発表会参加）
- 28 広報部会
- 22 教育課題委員会
- 21 広報部会・事業委員会
- 17 部長会

全連退ホームページ「表紙の写真」募集について

全連退ホームページの表紙を飾る写真を、会員の皆様から募集いたします。内容は、表紙にふさわしいものであれば、自由です。写真は3～5枚で、メールまたはプリント写真での受付といたします。採用させていただきますと、作品名とお名前を掲載して一定期間活用させていただきます。宛先は全連退広報部です。今回の募集期間は令和5年5月31日までです。

送り先 メール info@zenrentai.org  
郵送 東京都品川区東五反田5-21-13-308

編集後記

○新しい年を迎えました。コロナ禍が続く毎日ですが、皆様にはいかがお過ごしでしょうか。

○「地区連絡協議会」や「都道府県だより」の多くが、連絡協議会や各県の総会等の事業が3年振りに再開できた喜びを述べています。令和5年も予定通りに各種事業が開催されることを、心より祈念申し上げます。

○今年も広報部員一同は、よりよい会報の編集を目指して努力を続けてまいります。御協力の程、どうぞよろしくお願いたします。

全連退会報 (226号)

発行 令和五年一月一日  
発行所 東京都品川区東五反田 五二一三三三〇八  
全国連合退職校長会  
電話 〇三三四四二八七六八  
FAX 〇三三四四二八七六八  
Email: info@zenrentai.org  
振替口座 〇〇一九〇九四四七二〇  
〇責任者 入子 祐三  
印刷 株式会社 信行社  
電話 〇三三四三三三六二二



全連退会員  
バッジの着用を

全連退会員として、バッジを着用して、会員としての自覚と、つながりを求めましょう。  
送料を含めて、一個一、二〇〇円です。  
なお、三十個以上まとめますと、一個一、〇〇〇円となります。  
(全連退事務局)